

事業報告書等提出書

令和 3 年 6 月 18 日

静岡市長 田辺信宏 様

主たる事務所の所在地	静岡市駿河区曲金 5 丁目 4-58
名 称	特定非営利活動法人ひまわり事業団
代表者氏名	理事長 小久江寛
電 話 番 号	054-288-6068

次に掲げる前事業年度（令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで）の事業報告書等について、特定非営利活動促進法（平成 10 年法律第 7 号）第 29 条（同法第 52 条第 1 項（同 法第 62 条において準用する場合を含む。）の規定により読み替えて適用する場合を含む。）の規定により提出します。

1	事業報告書
2	活動計算書
3	貸借対照表
4	財産目録
5	年間役員名簿
6	前事業年度の社員のうち 10 人以上の者の氏名（法人にあつては、その名称及び代表者の氏名）及び住所又は居所を記載した書面

（注）提出書類は、副本 1 部を併せて提出してください。

## 特定非営利活動法人ひまわり事業団

# 令和2年度 事業報告書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

## I 事業の成果

令和2年度は、新型コロナウイルスへの感染予防と対策の一年であった。具体的には、職員およびヘルパーには毎日の健康観察票と行動履歴の記録を義務付け、利用者（主に重度障害の方）へは、防護服、手袋、アルコール消毒液等を配布した。また、市内の感染拡大状況に応じて、テレワーク体制（事務及び相談部門）と在宅支援（通所系事業）を計3回実施した。さらに、専門家を講師に招き、自然災害と感染対策についてのBCP（事業継続計画）の作成研修も行った。残念なことに10月にヘルパー1人が陽性者、ケアに入っている重度訪問介護利用者1名が濃厚接触者となったため、その利用者の担当ヘルパー全員に自主的にPCR検査を実施し、全員陰性が確認された。その後職員の努力により、法人内に感染は広がらず、新型コロナウイルスの影響は最小限にとどめることができた。

一方、事業収益面においては、三期連続で総事業収入が4億を超えていたのに対し、令和2年度は3億9千万円台に留まり(対前年度比6.7%の減収)、営業利益は対前年度比80.6%の減益となったが、当期収支差額は6百万を確保できた。原因としては、新型コロナウイルスの影響による利用者の減少（特に済生会病院駐車場管理業務やヘルパー派遣事業における移動支援）に伴う減収があった。他方で基幹事業である介助派遣サービス「ひだまり」における、重度訪問介護利用者の高齢・重度化（うち法人設立依頼の利用者1名の逝去を含む）、ヘルパー不足や満足度の低下による派遣の縮小等、事業が抱える本質的な問題が浮き彫りになり、構造的な減収も大きかった。

とはいえ、農業法人との人事交流のきっかけをいただき、それいゆでの新事業への展望等も動き始めている。

また事業展開として、放課後等デイサービス「らるく」は年度末で閉鎖し、新たに生活介護と放課後等デイサービスの併設、多機能型事業所「さにい」として再出発し、「それいゆ」の独立と生活介護の立て直しを軸に事業の再編成を決定し、来年度から新たにスタートする予定。

## II 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

#### 1. 法人運営について

■目的：安定した法人運営を図る為。

成果
1. 総会の開催 5月29日（金）書面決議にて開催
2. 理事会の開催 年4回 8月28日（金） 第1回 第1四半期の事業報告と会計報告、修正予算案 12月9日（火） 第2回 上半期の事業報告と会計報告、修正予算案
来年度の新たな事業展開について 2月26日（金） 第3回 第3四半期の事業報告と会計報告

来年度の新たな事業展開について			
5月19日(水) 第4回 令和2年度事業報告および会計報告 令和3年度事業計画及び予算			
役員改選について			
3. その他の会議と助言者			
事業の経営、運営について	月2回	年19回実施	相談役 丸林輝丈氏
労務管理について	月2回	年26回実施	社会保険労務士 鈴木絵里氏
衛生委員会の開催	月1回	年11回実施	産業医 秋山仁一郎氏

## 2. 静岡障害者自立生活センター

■目的：障害者自身が生活を主体的に送ることが出来るように支援する。

事業報告	成果と課題
①障害当事者自身が主体的に生活を送る為の最初の一步を踏み出すサポートをする。 ②活動を通して、ピアカウンセリングの有効性（自己信頼の回復、人間関係の再構築）を伝え、当事者のエンパワメントを促進する。	コロナ禍の影響で学校訪問や施設訪問等の活動が出来ていない。計画立てと役割分担を行い実践する。また、自立生活に興味を持つ当事者が近隣施設に入所しており、継続的に関わり自立生活につなげていきたい。

■目的：同じ背景（障害当事者）を持つ仲間（ピア）同士で気持ちを聞きあい、自身の課題に向き合う力をつけていく

事業報告	成果と課題
コロナ禍の影響により今年度も集中講座は中止した。来静予定であったリーダー（CILリング・中尾氏、CILスリーピース・岡本氏）とのリーダーセッションは継続中。	全国のCILで集中講座のオンライン（Zoom）開催も検討しているが、ピアカン初心者にはオンライン参加が難しい。個別のピアカンを検討する。

■目的：全国の現在の障害当事者運動の方向性や活動を知り、県内・市内のCILとともに障害者運動を推進していく

事業報告	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県CIL、JILともにコロナ禍の影響で会合はすべてオンライン（Zoom）開催。県CIL連絡協議会合同IL合宿もコロナ禍の影響により中止。</li> <li>・JIL人権委員会主催の障害者虐待防止ワークショップ・インストラクター養成研修もオンラインにて実施（10/3、4）。</li> <li>・移動支援・バリアフリー委員会：4～5月はコロナ禍のため中止。6月以降は通常開催。9月開催時に市交通政策課の職員を招き、バリアフリー基本構想、マスタープラン策定について市の取り組みを聞いた。</li> <li>・福祉オンブズマン活動：コロナ禍のため4月以降施設訪問は中止している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県CIL連絡協議会：定例会議を継続。ヘルパー不足やコロナ対策等を検討していく。</li> <li>・12月のJIL全国セミナーもすべてオンライン開催となる予定。</li> <li>・移動支援・バリアフリー委員会：予定通り開催。今後、市のバリアフリー基本構想やマスタープラン策定について、当事者参画による働きかけを行っている。</li> </ul> また、公共交通（バス、タクシー等）への接遇研修や乗車体験イベントなどの企画も行っている。

■目的：将来、自立を目指す障害者に対して、自立に向けた体験の場を提供すると共に、利用者が「その人らしい」地域生活の場につながるよう支援していく。

事業報告	成果と課題
再検討委員会は未設置。前段階として全国のCIL	利用の幅を広げ、今後活動を活性化する必要がある

<p>して体験室の利用のバリエーションの情報を 得て執行部当事者スタッフ内で検討会議実施。</p>	<p>る。</p>
---	-----------

■目的：若い障害当事者の社会参加を後押しする。

事業報告	成果と課題
<p>①職場体験の受け入れを行った。</p> <p>②中央特別支援学校の生徒の見学及び体験。</p> <p>③中央特別支援学校との関係を築き、Zoomを使ったILP(余暇の過ごし方をテーマとした講義)を2回実施した。</p> <p>④中央特別支援学校から就労をテーマとした講義を実施。</p>	<p>①成果：有望な若手当事者の発掘。ハード面・ソフト面での受け入れ可能性を確認出来た。</p> <p>①課題：受け入れを行った生徒の、その後の支援体制が不十分。</p> <p>②④成果：参加者の将来に対する視野の拡大。</p> <p>②課題：事前の情報共有等、準備に課題。</p> <p>③成果：学校との継続的な受け入れ態勢の構築。OB・OGならではの視点での講義が出来た。</p> <p>③課題：オンラインでは反応が分かりづらい点があった。世代間ギャップがあるため、歳の近いOB・OGの存在が必要。</p> <p>④課題：特支以外の学校との教育の差。インクルーシブ教育の必要性。</p>

### 3. 介助派遣サービスひだまり

■目的：障害当事者を支える基幹事業として、障害を持っている人が地域で安心して暮らせるように、24時間365日のヘルパー派遣を実施する。

事業報告	成果と課題
<p>①本人の希望する生活は何かと一緒に考えることを目的に、月に1度利用者宅に訪問。</p> <p>②月1回運営会議を開催し、提供内容を全員で共有した。コーディネーター会議は毎週開催。 重度訪問支給量…19名中、女性3名、男性1名が使いきれてない状況。居宅・移動支援利用者は、コロナの影響で以前より利用量が減少した。ヘルパーの減少も提供量が減少した要因。</p> <p>③毎年5月の他人介護料更新時期に、利用者の要望に応じて書類作成のサポートを行った。</p> <p>④非定型審査会への申請サポート。</p> <p>⑤利用者に近い立場のコーディネーターもしくは当事者が関わる機会を増やす。</p> <p>⑥利用者が福祉サービス以外でひまわり事業団と関わる機会を増やす目的で、広報委員会との協働</p>	<p>①利用者の細かなニーズを発掘することが出来、改善に導く事が出来た。時間をかけて話を聞くことにより、利用者の思いを的確に理解することが出来た。課題として、利用者、コーディネーター双方のスケジュールやコロナの関係で、頻度と人数を見直す必要があるとわかった。訪問時間もコミュニケーションの問題などで2時間近く及ぶことも多く、効率的なシステム構築の必要がある。</p> <p>②コーディネーター会議を通して担当利用者以外への理解を深める事が出来た。情報共有によって女性コーディネーターが男性利用者、男性ヘルパーの現状を把握することで、今後の運営方針の幅の広がり期待が持てる。運営会議にて3カ月ごとの数値を見る事により、運営の仕組みや利用者の動きを読みとく事を学んだ。課題として、時間数を使い切れていない利用者に対して、ニーズを踏まえた無理のないヘルパー利用の働きかけを継続して行っていく必要があると判明。コロナの影響を受けない派遣方法について検討をしていく。</p> <p>③必要な他人介護料の継続が出来た。課題として、他人介護料制度化に関する利用者のアプローチに関して、今後当事者スタッフが積極的に関わる必要がある。</p> <p>④取組中のため数値的成果は上がってないが、利用者の制度の利用の仕方や必要なニーズを聞き出すことが出来、今後役に立たせていく。課題としては、非定型作成にスムーズに取り組める仕事配分を行って行く必要がある。</p> <p>⑤①に同じ。</p> <p>⑥ヘルパー利用により、やりたいことに挑戦出来る事を発信することが出来た。課題としては、コロナに影響されない</p>

し機関誌に重度訪問利用者3名を推薦し、ヘルパーを利用した日常生活の紹介を行った。	方法、ズーム等を取り入れた関わりの場を検討していく。
--	----------------------------

■目的：ヘルパーの満足度を上げる。【ヘルパーが長期的に働ける環境整備をしていく】

事業報告	成果と課題
<p>①安定したヘルパー派遣のため、人事委員会と協働し慢性的なヘルパー不足を解消する。友達紹介キャンペーンでは、女子学生2名、男子学生2名、他社就労女性2名が面接。移動支援の講演会に講師として参加をした。</p> <p>②ヘルパーの業務を通じて地域社会を変革するきっかけを作る（基礎講座終了後に30分程度時間を設けて開催） コロナの影響で対面での研修を開催出来ず、ヘルパーとの意見交換会も開催されなかった。年間2回の面接時、個別に準常勤以上ヘルパーからの意見を聞いた。ズーム、LINE面接の提案をしたが、対面面接が主となり感染予防を徹底して行った。</p>	<p>①友達紹介キャンペーンは学生間での効果があり今後も継続して行って行きたい。課題としては、介護資格を持っていない学生が主で、重度訪問介護研修を受講するまでの時間がかかるため、現場研修を無駄なく組んでいく必要がある。募集については、引き続き人事委員会と共同で行う。</p> <p>②時間を設けてヘルパーの話を聞くことで、不満のはけ口となり、仕事に対するモチベーションを上げることが出来た。課題は多く、金額面、働き方、利用者の問題、コーディネーター対応等について、見直す必要がある。研修会に関しては、コロナの影響下でも出来るような内容を企画委員会と共同で検討していく。現場の個別研修に関しても、引き続き感染予防を徹底して安全に行う。衛生物品の配布は非常に有効だった。</p>

■目的：安定的な事業運営を行う

事業報告	成果と課題
<p>安定した運営の為の事業の見直し。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>月に1度、運営会議を開催、コーディネーター会議は毎週開催した。事故報告、ヒヤリハットの共有は、都度回覧し解決策を話し合った。</li> <li>コロナの影響：移動支援の依頼は一定数あったが、ヘルパーが感染を恐れて受けないケースが多かった。近隣施設でのクラスター関連で移動・居宅利用者が、長期自粛をすることもあった。移動支援の依頼が無くなると月100万円近くの損失となる。</li> <li>コロナ以外の影響：既存の利用者が他事業所を利用し始めたことによる損失があった。</li> </ul>	<p>運営会議とコーディネーター会議を毎月開催することにより、運営状況を部署内で共有をすることが出来た。</p> <p>課題としては、ヘルパー不足によりコーディネーターが日中のケアに出る状況が継続している影響で新規の長時間利用者の獲得方法・既存の利用者の希望に沿った派遣ができていないの見直し・必要であればサービス提供の増量等を検討する時間を設けることが出来なかったこと。ヘルパー不足の解消とコーディネーターの業務の整理と人員補強が必要。</p> <p>利用者の高齢化は年々リスクも高くなるので、早急に対策を検討する必要がある。短期的には、時間数を使いきれっていない利用者に働きかけていく、時間数不足には非定型を検討していく、計画相談事業所等に働きかけて新規の利用者確保等。長期的には当事者スタッフと協働し、新規の重度訪問利用者を獲得していく。今後、コロナの影響を受けずに、事業運営を成り立たせていく方法も検討していく必要がある。</p>

#### 4. それいゆ（就労継続支援B型）

※令和2年度平均利用者15.5人（定員14人）

■目的：アートを通して自己表現の楽しさを得るとともに、将来収入に繋げられるよう様々な方向か

ら社会へアプローチを行う。

事業報告	成果と課題
<p>①アートイベント 12月13日実施：コロナ感染対策をしたうえで縮小して実施した。参加者は75名。教育委員会の後援名義使用許可、ゆめ基金に申請し許可を得た。今年度は、コロナの影響で職員全体でのアート研修はできなかった。アーティストさんとの打ち合わせ：5回</p> <p>②ファッションショーのオファーがあり、9月27日 利用者1名参加。</p> <p>③まちじゅうアート出展：一点につき、レンタル料5,000円のうち30%が製作側に入る。 (5,000×0.3×11=¥16,500の収入)</p> <p>④常葉大学生 保育実習 計8名受け入れた。計12名を受け入れ。</p> <p>⑤静岡大学教育学部の授業参加（オンライン）2回</p>	<p>①アートイベント前日～当日 絵本翻訳家、漫画家が来所。利用者の作品について興味を持っていただき、今後の展開が広がってきている。今後コロナの状況を踏まえながらアートに関して何が出来るかを意識して継続して行う必要がある。</p> <p>②新たにファッションモデルとしての依頼もあり活躍の場が出来てきている。</p> <p>③より多くの方に作品を見てもらう機会が出来、ファンを増やすことができた。</p> <p>④常葉大学との連携も継続。ゼミの後輩の学生にも、今回卒業生より引継ぎをしてもらった。保育実習は大学側からも評価を頂き、新たな教育関係者とのつながりが継続して出来ており、今後も継続して行う展開となっている。</p> <p>⑤静岡大学との連携が生まれ、今後の若い世代（小・中学生）の教育現場の観点から何が出来るかを模索している。</p>

■目的：利用者の就労支援だけでなく、生活全体や健康面について支援をしていく。特に老障介護の問題に力点を置き個別支援を強化する。

事業報告	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定健康診査を実施 該当者9名中8名行った。初めての健康診断ということで付き添い1名。</li> <li>・1名のグループホーム入所支援をおこなった。</li> <li>・体験ハウスビギンを活用し始めている利用者1名。</li> <li>・コロナで不安な気持ちを抱える利用者には、感染予防をしながら通所できる体制をとった。</li> <li>・1名の介護保険移行者の支援を行った。</li> <li>・ラジオ体操は継続している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナが長引き、自分のやりたい事が出来ない状況が続くなど精神的に不安定になる利用者が多い。また親世代にも不安感があり、健康診断に積極的でないと思われる利用者家族もあり、話を聞きながら調整をしている。</li> <li>・浜松レッツのリモート研修に参加。支援員だけでなく、保護者2名にも参加していただいた。重度知的の方の今後の生活の場について考えるよい機会となった。</li> <li>・利用者の体重が増加傾向で、日常的に運動を取り入れる更なる工夫が必要になっており、ラジオ体操だけでなくでんでん体操を取り入れる方法を検討中。</li> </ul>

■目的：事故のない安全・安心な済生会総合病院来院者用駐車場の管理運営

事業報告	成果と課題
<p>①済生会事務局と上半期に一度、話し合いの場を設けた。</p> <p>②月一回、職員、誘導員が場内で起こる様々な事案について意見共有、解決策を話し合った。</p> <p>③7月よりPC対応のパネルタッチレジに機種変更。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体化の計画は進展なし。地域で障がい者が働く場として定着できるよう協議を続ける。11月以降、院内クラスタ発生の影響で収入が激減し、回復傾向も、減収継続中。</li> <li>・マスク越しでもはっきり、優しい言葉遣いをこころがけている。</li> <li>・お客様一人の対応時間の短縮を心掛けている。</li> </ul>

■目的：働く場としてだけでなく、利用者が安全に楽しく過ごせる場づくりをする。余暇外出を利用者自身が主体的に考えていけるように支援する。

事業報告	成果と課題
今年度のお出かけはすべて取りやめとなった。	コロナの影響が長引き、万全の体制が取れず食事会等に行っていない。来年度にはせいせいと新鮮な気持ちでお出かけ等が行なえるように切望している。また、コロナの影響が長引いた場合、何が出来るかを常に考えながら安心・楽しく過ごせる場づくりをしていく必要がある。

■目的：農作業、農産物を使った製品を作成し、工賃UPに繋げる。

事業報告	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在調理場を含め、駐車場建屋のリフォーム計画が進行中だが、コロナの影響があり遅れている。</li> <li>・工賃に関しては、現段階では販売をはじめない状況に至っていない。現段階では平均工賃は25,000円になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農福連携だけでなく、喫茶コーナー、アートの拠点として駐車場建屋の改装を計画している。</li> <li>・工賃UPについては、喫茶、エゴマ、野菜セットの販売を段階的に進める計画を、改装計画と合わせて行っている。</li> <li>・農地に関しては、農業法人すずなりグループの協力を得て新たに確保していく準備が進行中。</li> <li>・コロナの影響により、作業の受注のさがった企業もあり、駐車場収入だけでない自主的な販売体制の必要性が高まっている。</li> <li>・缶作業に関しては、作業効率を見直して廃止とした。</li> </ul> <p>上記を踏まえ、農福の連携を進めるにあたり、工賃UPが主体的に行える仕組みを作るため農業法人すずなりグループと連携をはかり、新たな収入源となるようにしていく。また新人職員を迎え、十分に能力を發揮できるような体制を作る必要がある。</p>

## 5.それいゆ（生活介護）

※令和2年度平均利用者5.2人（定員6人）

■目的：利用者のニーズに沿った自立支援を行う。

事業報告	成果と課題
<p>①個別支援会議は今年度行うことができなかった。 しかし6月から生活介護会議として毎週1時間生スタッフが集まって利用者の事や支援、運営について話し合っている。日頃から利用者とのコミュニケーションを取るよう支援員一同心掛けている。</p> <p>②支援員は「自立支援」の視点は常に持ちながら、利用者各々の「自己選択・自己決定」できるように支援を行っている。</p> <p>③《ILP》 「それいゆ食堂」「ザ・チャレンジ企画」についてはコロナ禍で密になる場所を作ることや、利用者がまだ自発的に企画に参加をするまでには持っていくことができなかったため、企画自体を進める事が</p>	<p>①昨年度と比較し、今年度は会議を習慣化することができた。支援員が事務所に来られない場合でもZOOMを活用してどこからでもスマホで会議に参加できるようにした。リモートができることで対面でないといけない会議が開ける事が大なるメリットだった。次年度は会議の内容を更に上げて短時間でも密のある会議にしていきたい。</p> <p>②特になし。</p> <p>③ILPは利用当事者の主体性に基づいて企画を考えてもらっている。また季節ごとのイベント（節分やクリスマス）など四季折々の楽しみ方を味わってもらうことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「それいゆ食堂」については、利用者が率先して調理を考え、材料を調達する支援体制も確保出来ず、食堂を運営する具体的な計画を立てることも難しいと判断し断念。</li> <li>・「ザ・チャレンジ企画」も利用者からの希望でなく、支援者側が無理やりチャレンジさせることは出来ないと考え中止にした。そのため広報誌「ひまわり通信」の掲載記事も終了となった。</li> <li>・次年度はILPの企画は利用者の状況を見ながら、取り組み</li> </ul>

<p>できなかった。</p> <p>④《ピアカン》</p> <p>ピアカンという名のセッションは行われなかった。一部の利用者からピアカンという言葉ができるが、個別相談の意味合いが強く、ピアカンで利用者自身のエンパワーメントが図れるような支援ができたとは言いがたい。ピアカンはカウンセリングを通して自らの力を引き出す事だということの説明が必要である。</p>	<p>やすい企画を考え、実行していくことが重要であると考え</p> <p>る。</p> <p>④《ピアカン》</p> <p>利用者が求めているのは心のサポートで、受け止めができる支援員や看護師であれば対応できることが分かった。今後はピアカンと心のサポートとの棲み分けをして、支援員や看護師でも利用者の心のケアに対応できるようにしていく。また、ピアカンの資質を持ったリーダー又は当事者が不在の為、セッション等ピアカンという名のプログラムも実施できなかった。利用者からのニーズがあれば外部からピアカンのできる当事者をお呼びしてピアカンを行うことを次年度は考えていきたい。</p>
--	---

■目的：利用者のQOLを高め、社会的自立を促す支援を行う。

事業報告	成果と課題
<p>①創作活動は、他部署による協力を得られ、市民ギャラリー掲示以降も短い時間で作れる作品（正月飾りやミニ凧）を製作した。</p> <p>外部講師はコロナ禍の中でお呼びするのが憚れたことと、リモート環境の整備が遅れ、開催に至らなかった。</p> <p>②利用者全員の健康診断は達成できなかった。利用者11名のうち5人が受診。</p> <p>③プログラム内で気分転換を図る方法として周辺散策をして精神的にふさぎこみがちな状況を意識的に打破してきた。</p>	<p>①創作活動は次年度も引き続き行い、利用者の意欲を最大限引き出していきたい。次年度は音楽活動や体操等の運動を取り入れたプログラムも取り入れて行き、利用者の感性を高め、自己表現をする場を増やしていきたい。</p> <p>②コロナ禍で在宅にいる時間が多く、利用者の体重が増えた。また動かないことで、動作が緩慢になってきている。食事については飲み込みが難しい利用者、アレルギーがある利用者、偏食の利用者がいるので個別に対応し支援していきたい。またコロナ禍で不安な気持ちを抱く利用者もいるので、精神的に気持ちがふさぎこまないように支援していく。</p>

■目的：社会活動への積極的な参加（地域交流、地域の啓蒙啓発）

事業報告	成果と課題
<p>①利用者会議は開催されていないが、利用者からの意見を引き出してプログラムの内容を決めたりと、利用者の主体性を大事にしてきた。</p> <p>②6月から始めた創作プログラムの中でタペストリーとガククラフトを製作し、12月に県立美術館の市民ギャラリーに掲示した。広報誌（ひまわり通信）に生活介護の活動を毎号掲載している。</p> <p>③今年は長年の課題であったバザーを開催することで、商品集めやチラシに色を塗るなど、上半期はバザー開催の準備をした。下半期（10月12日から16日）に1週間開催した。</p> <p>④「トライアルサポート DAY」（仮称）はより具体的な企画を打ち立てなければ、自立生活センターを知る機会や障害者理解には繋がらないと考える。しかし啓蒙啓発ということであれば12月の障害者週間に駿河区役所で生活介護の紹介パネルを掲示した。</p>	<p>①利用者の主体性を引き出す支援を次年度も続けて行く。</p> <p>②利用者の作品展の様子を3月発行の広報誌に掲載。</p> <p>③バザーを通して地域の人達との交流ができ、自分で商品を買って、お金を頂くという経験ができたことで、利用者自身のバザーへの意欲が増している。次年度もバザーを開催していく。</p> <p>④日頃から見学は可能なので、コロナ対策を取りながら、啓蒙に努めたい。パネル展示では、市役所を訪れた人々にパネルを見てもらうことで、生活介護それいゆの存在を知っていただくことができた。</p>

■目的：個々のニーズに応えた送迎対応をする

事業報告	成果と課題
<p>①車両管理会議に引き続き出席。</p> <p>②車両講習を開き、外部講師の話を交えながらDVD視聴することで、日頃の運転について見直しをする機会をもつことができた。また外部の運転講習を職員3名が受講し、実際に運転診断をして自らの運転技術の見直しの契機となった。</p>	<p>①現在送迎は一部の職員と外部（ヤマト運輸）で回しているが負担が大きい。より円滑になるよう送迎体制を見直したい。そのためにドライバーの確保とルートの見直し等をして安心安全に円滑な送迎ができるようにしていきたい。</p> <p>②送迎をする職員には運転講習を受けさせるなど、自らの運転技術の振り返りや危険予測を意識した運転を心掛けるようにしていきたい。</p>

## 6.らるく（放課後等デイサービス）

※令和2年度平均利用者0.6人（定員5人）

■目的：重心児を中心とした受け入れをしていく。

事業報告	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で休校になり1日受け入れとなったが、自主的に自粛するご家庭があり、利用されない月があった</li> <li>・新規利用者1名（6月～受け入れ予定であったが、コロナの影響等で10月～の受け入れとなる）</li> <li>・4月～2月実績：215日開所 延べ131人 1日平均0.6人</li> </ul>	<p>①体制づくり。 →事業団全体で共有する事が出来ない。 ひまわり事業団として放課後デイサービスの事業の方向性を見直し、再構築する必要がある。</p> <p>②医療的ケアの受け入れには設備及び人員配置。 →現場職員と法人とのコミュニケーション不足。</p> <p>③外出の機会はコロナの影響で中止</p>

## 7.なな～ら（共同生活援助）

※令和2年度平均利用者7.8人（定員10人）

■目的：共同生活だけではなく、一人暮らしの希望があれば支援をする。

事業報告	成果と課題
<p>①9名のアセスメントシートの更新を終了。月1回のスタッフ会議時に内容の見直しをした。</p> <p>②入居者の支援マニュアルの見直しを行った。</p> <p>③新しい入居者の就労先訪問2件、担当者会議4件、モニタリング9件参加した。</p> <p>④8月10日男性1名、8月12日女性1名入居（これにより、空室3→1）</p> <p>⑤利用案内書の写真等一部見直しをした。</p>	<p>①②の会議の中で誕生月の入居者の計画を見直していった結果、支援内容の再確認や現状の必要な支援が明確になった。</p> <p>③モニタリングや担当者会議に参加する事により情報共有する事ができた。何かあれば入居者の家族や就労先と連絡を取り、連携を図ることを継続していく。</p> <p>④男性1名、女性1名募集に対し入居が決まった。203号の空き部屋に対して引続き募集する。</p> <p>⑤今後も必要に応じて見直していく。</p>

■目的：入居者がいつまでも健康でいられるよう健康管理を行う。

事業報告	成果と課題
<p>①朝夕の検温、訪問者の検温を行った。バランスの良い食事の提供や服薬管理、2名の定期通院支援を行った。</p>	<p>①健康チェックやバランスの良い食事提供ができた。コロナの影響で通所が送迎に変わった入居者2名の体重増加が課題。一時仕事が休みになり、外出自粛のため不安が続いていた住人もいたが、就労先やピアサポートと連携しながら支援している。必要に</p>

<p>②入浴の促し、口腔ケア、外出時のマスク着用、手指の消毒等の衛生面に関わる個別支援を行った。</p> <p>③102号室前と、各部屋の下駄箱の上に消毒液を設置した。出勤後や一日1回各部屋のドアノブや蛇口等の消毒を行った。</p>	<p>応じて通院支援を継続していく。</p> <p>②引き続き衛生面に関わる個別支援を行う。入居者、支援員共に手指消毒やうがいなど、声掛けや見守りや徹底していく。クラスター発生を予防する。</p>
--	--

■目的：入居者が安心安全に過ごせるようにする。

事業報告	成果と課題
<p>①町内会に入会、事業団パンフレット、機関誌を回覧してもらった。</p> <p>②12月6日地域の防災訓練に参加。</p> <p>③西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会：コロナのため一時中止、7月31日より再開、参加している。8/28、9/25、10/23、11/6出席。11/21西豊田小にて防災訓練を行う。1/29振り返りに出席。</p> <p>④月1回なな～ら会議を開催し、支援内容の確認や情報共有を行った。</p> <p>⑤4か所のグループホームと情報交換。</p> <p>⑥支援員の交流会はコロナの影響で中止。</p> <p>⑦第2なな～ら準備会(仮称)発足に至っていない。</p>	<p>①機関誌は今年度2度回してもらった。次号も回覧してもらい、さらになな～らのアピールを行う予定。</p> <p>②今回は安否確認のみ。なな～ら独自で避難所確認の訓練を行った。</p> <p>③コロナ禍のため最小人数に抑えて11/21日西豊田小にて防災訓練を行った。人数制限があり今回は住人の方は参加しなかった。</p> <p>④入居者の情報交換や共有することができた。</p> <p>⑤食費等見直しのため情報交換がもう少し必要。</p> <p>⑥ランチ会など短時間、少人数での交流会を検討したが中止。</p> <p>⑦空き部屋を埋める事を優先したため、第2なな～ら準備会(仮称)発足に至っていない。</p>

■目的：なな～ら内での交流を深め余暇活動の充実を目指す。

事業報告	成果と課題
<p>①利用者の誕生日毎に誕生日会を行った。5月はコロナ禍だった為、駐車場でバーベキューを開催した。</p> <p>②4月～6月は花見、八幡山、登呂遺跡まで散歩を中心の外出をした。9月は白糸の滝までドライブに行った。10月は掛川城見学、11月は芋ほり体験、12月は防災訓練で町内の安否確認と避難所めぐりを行った。1月は初詣、2月はいちご狩りに出かけた。</p> <p>③6周年の記念食事は中止。</p>	<p>①コロナ禍で外食を控えていたため、バーベキューの開催は住人の交流の場にもなった。なな～らの食堂でビュッフェスタイルの食事にするなど工夫して楽しい会にできた。</p> <p>②移動中の車内はマスクと換気に気を付けた。車内も密にならないよう2回に分けて出掛けた。今後も様子を見ながら外出の予定を入居者一緒にと考えていきたい。</p> <p>③入居者9名と支援員4名では密になってしまうため。</p>

## 8.ピアサポート（計画相談）

■目的：支給決定時のサービス等利用計画 及び支給決定後の見直し（モニタリング）、「継続サービス利用支援」を行っていく。同時に、地域定着・地域移行支援に関しても必要に応じて行う。

事業報告	成果と課題
<p>・3ヵ月モニタリングは利用者の状態に応じて月2～3人訪問した。下半期は変更申請が多く月3</p>	<p>優先順位をつけて毎月訪問することができた。</p> <p>3ヵ月モニタリングは、月によって事業所見</p>

<p>～4 件ペースで追加依頼があったがすべて期間内に対応できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 年度計 11,568,613 円 月平均 964,051 円の請求を行った。</li> </ul>	<p>学同行や変更申請が随時追加されるため、件数に変動はでてしまうが、月 5 件程を目標に取り組んでいきたい。</p>
--	---

■目的：研修等に積極的に参加し、相談支援員としてのスキルアップを目指していく。

事業報告	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2020.11.2(月) 依存症問題研修会～自ら治療を求めようとしない人にどうかかわるか～細澤参加</li> <li>• 2021.1.8(金) 多職種との事例検討による目的指向型アプローチの視点に立った複合課題のアセスメントと家族支援研修「罪を犯した精神障害のある方の支援」 松本参加</li> <li>• 駿河区相談支援連絡調整会議・事務局会議には月 1 回参加し、困難事例の共有と他機関との意見交換をすることができたが、11 月～1 月はコロナ感染予防のため参加を控えた。</li> </ul>	<p>アセスメントの取り方や、ファシリテーションの方法等計画相談に特化した研修があれば今後も積極的に参加したい。引き続き定期的に参加し、他機関や行政との連携を図る。</p>

■目的：新規依頼は、相談員の仕事量に合わせて検討していく。

事業報告	成果と課題
<p>上半期で 17 名、10 月～1 月で 11 名の新規相談を受け入れたが、介護保険への移行や、就職等で契約終了となる利用者も数人いるため、現業務に支障なく対応できた。</p>	<p>新しい計画相談事業所が数件できたこともあり、問い合わせ後検討している間に他事業所に決まることが増えたが、他事業所にも断れ続ける困難事例は、今後も支援の糸口が見えれば受けるようにしていく。例年の傾向から、卒業間近や年度替わりに新規依頼が急遽くる可能性が高いため、できるだけ対応していきたい。</p>

## 9.ピアサポート（委託相談）

■目的：「どんな障害があっても地域でその人らしく暮らす」ための支援として、「誰からのどんな相談でも受けとめる」ことを徹底し、一人ひとりに合わせた相談支援を行う。

事業報告	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 相談件数：2940 件</li> <li>• 予定していた 4 回の研修への参加は無し（新型コロナ影響で中止のため）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 相談件数が年間予定（3000 件）を下回り、これは事業開始以来初。相談内容からは傾向が明らかでなかったが、新型コロナウイルス流行の影響と見られる。</li> <li>• 支援内容：サービス利用・障害理解・人間関係が大きく減少し、健康医療・家計経済・生活技術の相談が増加。</li> <li>• 在宅リモート勤務をはじめ、新たな取り組みを模索しつつ、従来通りの相談対応を行ってきた。</li> <li>• 相談内容は多岐に渡り、全相談件数の内 1840 件（62.5%）が「困難事例」となっている。</li> <li>• 今後も本人中心支援・意思決定支援と当事者主体を念頭に、適切なアセスメントに則った個別支援を行っていく。</li> <li>• 全国組織の研修が再開次第、積極的に参加するとともに、県内等の近場で開催される研修に、有用なものが無いか常にアンテナを広げていく。</li> </ul>

■目的：当事者一人ひとりに合わせた「自立」の実現のため、ピアカウンセリング・ILP を通して、

社会生活力の向上とエンパワメントの充実を図る。

事業報告	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 体制整備の不足から、ピアカウンセリングを実施出来ていない。</li> <li>• 新型コロナウイルス流行の影響等により、ILPも1月末までに13回の開催に留まっており、内容的にも生活介護でのプログラムのみとなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ピアカウンセリングについては、来年度より生活介護が新たな事業形態となることに合わせ、実施可能な態勢を整備することが急務である。</li> <li>• ILPについても、「自立」という言葉の定義を再確認し、個別支援の重要な要素として活用できる態勢を作る必要がある。</li> </ul>

■目的：自立支援協議会・各部会活動への参加をはじめとして、地域の社会資源の発掘と開発、連携の強化を図るとともに、地域課題の顕在化とその解決を目指す。

事業報告	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 年度当初に予定していた各種会議、研修等へは概ね予定通り参加出来ている。</li> <li>• 新型コロナウイルスの影響で、中止や開催回数の減少があった（相談支援部会勉強会、駿河区連絡調整会議等）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 会議等の開催が難しい中で、様々な対策を行いながら対応してきた。</li> <li>• リモートツールを用いた会議の開催・参加等、新たな試みを行いながら、機関相互連携を絶やさぬように努めている。</li> <li>• 十分な感染対策を行いながら会議や勉強会等の開催・参加を今後も積極的に行う。</li> </ul>

■目的：障害者虐待相談窓口として、迅速な対応を行い、虐待の防止・解消を目指す。

事業報告	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 虐待対応：20件</li> <li>• 対象者：9人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新規虐待相談と併せて、継続的に支援を行っているケース含まれる。また長期関わっていた中で、今年度に入ってから終結したケースも存在する。</li> <li>• 各関係機関と、十分に連携を取りながら対応が出来ている。</li> </ul>

## 10. ヘルパー養成研修等

■目的：重度障害者が地域で安心して暮らせる社会を実現するために、重度訪問介護利用者をサポートできるヘルパー、さらには医療的ケアのできるヘルパーを増やすために、自らが研修機関としての指定を取得して、ヘルパー養成研修を実施する。

事業報告	成果と課題
<p>①介護職員たんの吸引等研修（9時間）：4回実施 新型コロナウイルス感染拡大を防止するため定員を12名→6名に縮小して実施。計20名修了。</p> <p>②重度訪問介護ヘルパー養成研修～基礎・追加課程（20時間）：5回実施（残り6回は定員不足により中止）。計15名参加、内10名修了。</p> <p>③全身性ガイドヘルパー養成研修（11時間）：1回実施：当初6月の予定を10月に変更した上で定員を12名に縮小して実施。10/30・31（金・土） 11名</p>	<p>①定員縮小して実施したが、コロナ感染を懸念して急なキャンセル等があり、定員を満たすことが無かった。</p> <p>②ひだまりヘルパー不足を解消することが研修実施のひとつの目的であったが、全国的な介護人材不足により、受講生が集まらず、11回中6回が中止になった。</p> <p>③同様の研修を実施している機関が他にないため、依然ニーズはあると考える。</p>

■目的：災害のための事前対策を講ずることにより、緊急時に速やかな対応ができる体制を整備し、利用者および従業員の安全を図ると共に、事業資産への被害を最小限に食い止める。また、災害時であっても中核事業を継続し、災害後に事業全体をいち早く再開できる体制を整える。

事業報告	成果と課題
------	-------

<p>①10月27日防災訓練 中止</p> <p>②西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会への参加。6/24～実行委員会、11/21 防災訓練</p> <p>③BCP 策定のための研修（講師：COACT 渡嘉敷氏）</p> <p>④新型コロナウイルス感染拡大防止に努めた</p>	<p>①秋に予定していた避難訓練は、新型コロナウイルス感染拡大状況であったため延期。</p> <p>③6月 打合せ、スケジュール確認</p> <p>7月 過去の災害事例とBCP・BMCについて</p> <p>8月 被害想定から起きる事を考える（個別3回）</p> <p>9月 タイムライン作成（個別3回）</p> <p>10月 タイムライン作成（合同）</p> <p>11月 机上訓練</p> <p>④全国および静岡県の感染拡大状況を注視しつつ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者および職員・ヘルパー・支援員への注意喚起、</li> <li>・必要に応じて通所系閉鎖やテレワークを活用した事業の縮小 等の対策を行った。</li> </ul>
---	---

## 11. 各委員会

### ■広報委員会

事業報告	成果と課題
<p>①ソーシャルメディア（ホームページ、SNS）の充実。広報委員が各事業の担当制によりブログ更新。（定例：2週間1回。その他随時）</p> <p>②機関誌を活用し、障害当事者及び団体、職員、ヘルパーと「ひまわり」にかかわる人たち（西豊田学区及び地域、学校など）紹介。（年4回発行）</p> <p>③事業団パンフレットリニューアル・法人全体のパンフレットのリニューアル</p>	<p>①ホームページを管理会社より買い取り、自社管理とした。ブログ更新は、委員会再編時に滞りは見られたが、その後は定期的に更新を継続している。</p> <p>②年間4回（6月、9月、12月、3月）発行した。年間を通じた特集テーマを決め、令和2年度は「バリアフリー・ユニバーサルなお店紹介」として、就労B型事業所で運営しているお店などを中心に特集した。（総発行部数3500部/年）</p> <p>③事業の再編に伴い、パンフレットをリニューアルした。また、同時に社員証の発行、名刺の統一を検討し実行した。</p>

### ■人事委員会

事業報告	成果と課題
<p>① 健常者職員2名（男女1名ずつ）を採用予定。現在は試用期間中。（11月より）</p> <p>②「お友達紹介キャンペーン」は 継続中。車内広告は終了。車内アナウンスは継続中（21年3月末日まで）</p> <p>広告媒体（DoMo、バイトル、タウンワーク）等を利用し年間を通じてヘルパー募集を行った。その他、就職フェアやハローワークを利用した。</p> <p>③各諸手当について（案）を作成し、執行</p>	<p>① 健常者職員2名を採用した。※但し、1名（男性）は固定給のヘルパーとして採用。障がい者雇用は、駐車場の受付業務としてアルバイトを1名採用した。（4月より）</p> <p>採用に関するフローチャートを作成し（職員、パート、アルバイト、支援員）採用までの流れと役割を明確化した。</p> <p>②「お友達紹介キャンペーン」は継続中だが、新たな紹介者はない。静鉄ジャストラインの車内広告と車内アナウンスは3月末日で終了した。</p> <p>掲載費用：合計額 659,960円</p> <p>応募者数：合計 26名（ネットの回覧数：258件）</p> <p>採用者数：4名（内訳：職員1名、ヘルパー2名、アルバイト1名）</p> <p>③各諸手当について（案）を作成し、執行部に提出済み。引き続き検討をして頂く。※延長保育料の補助</p>

部に提出済み。	を7月より実施している。
---------	--------------

## ■企画委員会

事業報告	成果と課題															
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度は、昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、ひまわり研修やフェス等の全体で集まるイベント等の企画を行うことが出来なかった。 (研修は書面で実施)</li> <li>上半期はひまフェスの開催についての議論が中心となり、コロナ禍でのイベント開催や、注意の場合の代替え案等について検討を行ってきた。カフェ蔵にも見学に行き、今後の地域との交流についても話し合いを行った。</li> <li>下半期(12月から)は、委員会メンバーを改変し、企画委員会としてより一層成果を積み上げていく事を意識し、定期的な会議を開催。(隔週1回)会議の内容は事前に委員長、副委員長で打ち合わせを行い、その内容を委員会内で話し合い、活動を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画委員会が発足してから上半期までは、行われていた会議の内容が不明確であった。下半期(12月)より会議の内容や目標をより具体化し、活動実績を上げた。また、細かな報告を上げ、委員会以外の職員への委員会活動内容の周知にも努めた。</li> <li>目標を明確にし、1つ1つを達成した。</li> </ul> <p>達成内容</p> <p>①ひまわり事業団のサービスに関する利用者へのアンケート：回収数と回収率</p> <table border="1"> <tr> <td>ひだまり</td> <td>49/86</td> <td>(57%)</td> </tr> <tr> <td>らるく</td> <td>3/3</td> <td>(100%)</td> </tr> <tr> <td>就労B</td> <td>13/16</td> <td>(81%)</td> </tr> <tr> <td>ななーら</td> <td>7/7</td> <td>(100%)</td> </tr> <tr> <td>生活介護</td> <td>6/6</td> <td>(100%)</td> </tr> </table> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最初のアンケートの発送から、集計まで半年以上かかってしまった。</li> <li>アンケート内容について知的障害のある方には少し難しい内容であったと感じる。</li> <li>重度訪問介護利用者以外にはILPやピアカンについての認知度がかなり低い</li> <li>アンケートの狙いを明確化し、事業に活かした方がいい。</li> </ul> <p>②令和3年度からの事業団の全研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度はコロナ禍で対面での研修はほぼすべて中止となった。その中で、令和3年度の研修内容について企画委員会で提案をした。また、研修希望票を配布し、4月に回収、参加者のとりまとめを行った。</li> </ul> <p>③地域交流について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ひまフェスについて：目的として、「地域に対して事業団が積極的にイベント等を開催し情報を発信する機会」とした。その為、今後はひまフェスに限らず、積極的な情報発信の場を考えていくことが決まった。</li> <li>カフェ蔵について：訪問日 10/23、11/13 職員4名 就労B利用者3名。上半期に2度訪問を行ったが、緊急事態宣言もあり、カフェ蔵自体が休止となってしまった。</li> </ul>	ひだまり	49/86	(57%)	らるく	3/3	(100%)	就労B	13/16	(81%)	ななーら	7/7	(100%)	生活介護	6/6	(100%)
ひだまり	49/86	(57%)														
らるく	3/3	(100%)														
就労B	13/16	(81%)														
ななーら	7/7	(100%)														
生活介護	6/6	(100%)														

## (2) その他の事業

今年度は実施しませんでした。

特定非営利活動法人ひまわり事業団 令和2年度 活動計算書  
令和2年4月1日～令和3年3月31日

科目		科目明細	決算額	備考
1	<b>I 収入の部</b>			
2	<b>1 事業収入</b>			
3		介助派遣事業	288,493,963	介助派遣サービスひだまり
4		就労継続支援B型事業	29,785,247	それいゆ
5		生活介護事業	19,226,366	それいゆ
6		放課後等デイサービス事業	2,837,984	らるく
7		計画相談事業	11,543,905	ピアサポート
8		グループホーム事業	17,071,775	なな～ら
9		委託相談支援事業	13,632,000	ピアサポート
10		済生会病院駐車場管理事業	9,272,357	
11		ヘルパー養成研修事業	527,990	重度訪問介護、全身性ガイド等
12		合計	392,391,587	
13	<b>2 助成金等</b>			
14		雇用助成金	4,452,570	
15		合計	4,452,570	
16	<b>3 その他</b>			
17		コロナ交付金	10,538,000	
18		雑収入	1,296,928	
19		貸倒引当金戻入益	441,248	
20		受取利息、配当金	4,067	
21		合計	12,280,243	
22	<b>当期収入合計(A)</b>		<b>409,124,400</b>	
23	<b>前期繰越収支差額</b>		<b>112,521,686</b>	
24	<b>収入合計(B)</b>		<b>521,646,086</b>	
25	<b>II 支出の部</b>			
26	<b>1 事業費</b>			
27		介助派遣事業関連費	160,930,065	介助派遣サービスひだまり
28		就労継続支援B型、生活介護事業関連費	309,772	それいゆ
29		放課後等デイサービス事業関連費	66,616	らるく
30		グループホーム事業関連費	158,733	なな～ら
31		自立生活センター、相談支援事業関連	0	ILP、ピアカウンセリング
32		自立体験室事業関連費	31,395	ビギン
33		ヘルパー養成研修事業関連費	399,136	重度訪問介護、全身性ガイド
34		合計	161,895,717	
35	<b>2 管理費</b>			
36		給与手当	131,243,028	
37		特定退職金共済制度掛金	4,323,000	
38		法定福利費	41,911,935	
39		福利厚生費	600,368	
40		送迎委託費	1,105,018	
41		旅費交通費	630,934	
42		通信費	1,816,194	
43		顧問料	1,424,042	
44		保守管理費	839,844	
45		交際費	10,425	
46		広告宣伝費	848,550	
47		研修費	318,310	
48		地代家賃	25,659,980	
49		保険料	1,672,680	
50		修繕費	365,787	
51		水道光熱費	2,157,238	
52		他団体支援	470,000	
53		事務用品費	1,531,260	
54		消耗品費	2,579,981	
55		新聞図書費	130,885	
56		租税公課	140,500	
57		リース料	5,151,878	
58		支払手数料	178,781	
59		諸会費	880,542	
60		貸倒引当金繰入額	382,921	
61		減価償却費	2,204,630	
62		雑費	649,997	
63		支払利息割引料	902,232	
64		法人税	0	
65		合計	230,130,940	
66	<b>3 その他</b>			
67		コロナ交付金関連支出	10,538,000	
68	<b>当期支出合計(C)</b>		<b>402,564,657</b>	
69	<b>当期収支差額(A)-(C)</b>		<b>6,559,743</b>	
70	<b>次期繰越収支差額(B)-(C)</b>		<b>119,081,429</b>	

特定非営利活動法人ひまわり事業団 令和2年度 貸借対照表

令和3年3月31日 現在

科 目	金 額	
<b>I 資産の部</b>		
1 流動資産の部		
現金預金		
現金 現金手許有高	81,884	
普通預金	84,758,824	
積立預金	30,000	
売掛金	60,207,896	
仮払金	0	
立替金	733,582	
前払費用	257,000	
預け金	70,000,000	
未収入金	103,630	
貸倒引当金	-382,921	
流動資産合計		215,789,895
2 固定資産		
(1)基本財産		
なし	0	
基本財産合計	0	
(2)その他の固定資産		
建物	2	
建物附属設備	11,226,917	
車両運搬具	4	
工具器具備品	1,059,178	
ソフト料	215,460	
電話加入権	37,590	
敷金	6,827,000	
その他の固定資産合計		19,366,151
固定資産合計		19,366,151
資 産 合 計		235,156,046
<b>II 負債の部</b>		
1 流動負債		
買掛金	12,800,592	
短期借入金	73,190,058	
未払金	10,424,734	
住民税預り金	716,800	
雇用保険料預り金	223,190	
源泉税預り金	276,283	
未払費用	719,003	
未払い法人税等	1,094,900	
仮受金	265,500	
流動負債合計		99,711,060
2 固定負債		
長期借入金	16,363,557	
固定負債合計		16,363,557
負 債 合 計		116,074,617
<b>III 正味財産の部</b>		
前期繰越利益		112,521,686
当期正味財産増加額		6,559,743
正味財産合計		119,081,429
負債及び正味財産合計		235,156,046

令和2年度決算報告書の監査実施の結果、いずれも的確に処理されているものと認められますので、ご報告いたします。

令和3年5月17日

監事 堀 英雄 ⑩

令和3年5月21日

監事 井出 一史 ⑩

※原本には監事の署名・押印がありますが、個人情報保護のため印字に変えております。